

星震学特集	総説—星震学とは何か	高田将郎	61
	太陽型主系列星の星震学	Othman Benomar・関井隆	73
	KIC 11145123の星震学：内部自転，扁平率，進化過程	八田良樹・関井隆	80
	γ Dor型変光星で見つかった自転の効果を強く受けた固有振動モードについて	斉尾英行	86
	赤色巨星の星震学	高田将郎	94
EUREKA	すばる望遠鏡で探る銀河の星形成最盛期の Ly α 輝線銀河	日下部晴香	102
	ガンマ線での暗黒物質探査における矮小楕円銀河の空間広がりの効果	廣島渚	111
書評	太陽ってどんな星？	矢治健太郎	119
雑報	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 2nd LAMOST-Kepler workshop	野津湧太	120
月報だより			122

【表紙画像説明】

暗黒物質の対消滅ガンマ線の空間分布は密度の2乗を視線積分に沿って積分したもの(J因子)に従うと期待される。矮小楕円銀河の暗黒物質密度分布として種々のモデルが提案されているが、一例として、りゅう座矮小銀河について Navarro-Frenk-White (NFW) モデルを仮定した場合のガンマ線輝度分布を示した。NFWはカスプ状の密度分布であり、この特徴を反映して中心部では急激にガンマ線フラックスが高くなると期待される。

【表紙デザイン】

輝く金星のイメージを描きました。